

② ネパール大地震で、ほぼ全戸が崩壊という被害を受けながらも、転出世帯を見ない理由はどこに。

山崎憲治

研究課題

- 1) 2015年4月15日11時56分、ネパール・カトマンズ周辺を震源とするマグチュード7.8の地震が発生。犠牲者は8970名。そのうちの56%が女性。
- 2) 調査対象は震源地から約180km離れた、パルパ県、スケコット集落（マガル族の村）。
- 3) 53戸のうち49戸が全壊、にも関わらず、犠牲者はゼロだった。調査時39戸再建。
- 4) 政府は復興住宅に1戸に30万ルピーを提供。この資金が集落からの転出を止めた。
- 5) 女性の識字率が上がり、農業に現金収入を期待し、新しい作物や試みをする女性が生まれる。「海外出稼ぎ」見直す動きが出てきている。
- 6) 集落から転出した世帯はない。村の復興に関わることで、新たな可能性を農業に見ようとする女性の働きに注目したい。この点を日本の被災地との比較検討課題としていきたい。



崩壊したままの住居



建設中の住居



地震で破壊されなかった住居



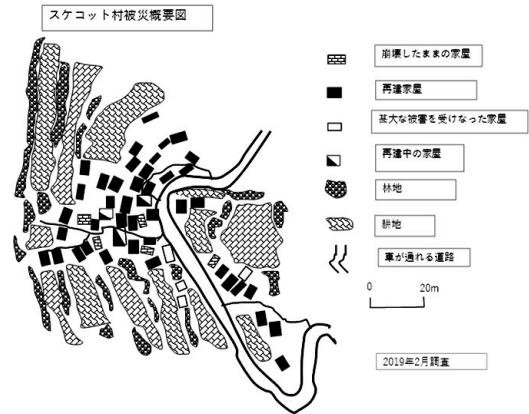
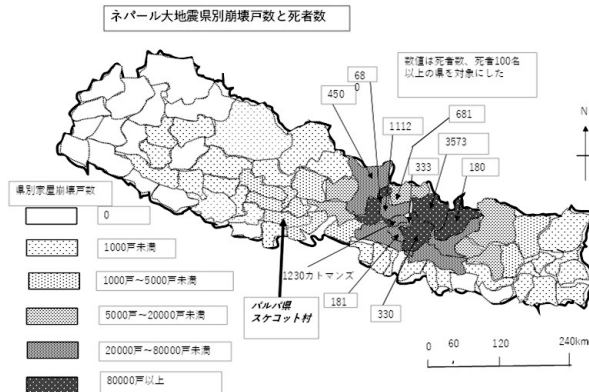
完成した復興住宅



村長の復興住宅

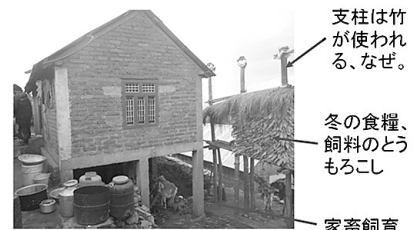


震災前に完成した水道

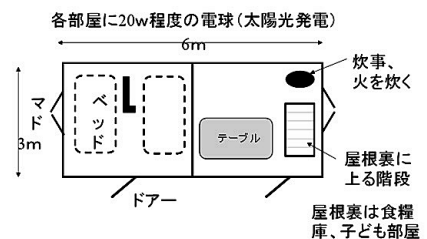


再建した家

階下は家畜を飼うスペース、とうもろこしを食糧、飼料として蓄え。支柱に竹が使われる。



私が滞在した復興住宅



復興の現状と課題

